

実践報告

## オンラインによる大学英語授業実践報告

渡邊正明\*

**要旨：**2020年4月のコロナ感染に係る「緊急事態宣言」発出に伴い、小中高等学校及び大学等では登校停止措置となり、本学においてもオンライン授業が実施されることになった。ここでは昨年5月に開始したオンライン授業までの大学教職員の指導による情報機器の習熟、具体的な準備過程としての教科書のファイル化、オンラインでの英語4技能を育成する授業、オンラインでの成績評価用試験の実施、学生による「授業評価」等を検証し、その実践や結果、反省等を報告する。

**キーワード：**コロナ禍、オンライン授業、デジタルファイル化、授業評価、情報機器

### A Report on Online English Teaching at the University

Masaaki WATANABE\*

**Abstract:** A wide expansion of COVID-19 has made almost all the universities in Japan discontinue teaching in classrooms since April 2020 and then shift to online teaching. I aim to report the experiences, some of the reflections, the students' evaluation process, the feedback of teaching English through online classes, the online evaluation examinations conducted under the instructions by the university staff, and teaching with digital files of the textbooks at the Faculty of Informatics in Tokyo University of Information Sciences.

**Keywords:** COVID-19, Online Teaching, Digital Files, Evaluation for Online Teaching, Information-Processing Equipment

---

\*東京情報大学 総合情報学部  
Faculty of Informatics, Tokyo University of Information Sciences

2021年5月13日受付  
2021年10月15日受理

## 1 はじめに

日本の教育史において2020年度はオンライン授業の進展として記憶されるべき年度だと後世そう振り返られるかもしれない。2020年4月のコロナ感染に係る緊急事態宣言発出に伴い小中高等学校及び大学等では児童・生徒・学生に対して登校停止の措置が取られ、大学のほとんどでオンライン授業が実施された。小中高等学校においてはオンラインによる一斉授業が不可能な場合は課題や時差登校、学年・学級別登校、曜日別登校等で対応した。

大学ではコロナ禍以前からオンライン授業は実施されており、石田（2021）で、「学生授業満足度は過去5年間の対面授業を上回り、学生自身の授業に対する取り組み度も高いなど、その教育効果は過年度対面授業に比べ劣るものではなく、学生満足度を高めるのに十分なほど高かったことを明らかにした（P.11）」と述べられているとおり、オンライン授業の状況はすでに報告されていて、オンライン授業は一般的な印象とは異なり、対面授業によってもたらされる学習効果と比較した上で、オンライン授業の学習効果について有効であると報告されている[注1]。

ここに本学で私が実施したオンライン授業の実践を改めて報告することにより、すでにオンライン授業に取り組み、またこれからオンライン授業に取り組もうとされる教師の皆様にも僅かでもオンライン授業のヒントになれば本望である。

20年度の前期及び後期のオンライン授業を通じての私自身の感想は、オンライン授業は単純明快であり、その方法次第では教師学生双方にとって有益だということである。

## 2 大学オンライン授業との出会い

2020年2月中旬に大学勤務の友人から東京情報大学総合情報学部で4月から金曜日1,2限2コマの英語c（前期）、英語d（後期）の担当依頼があった。折しもコロナ感染の広がりのためその防疫と克服に政府や地方自治体を中心となり様々な対策を打ち出す中、小中高等学校や大学その他の学校では登校停止措置が取られることとなり、特に大学では全面的なオンライン授業が開始された。

30年間高等学校に英語科教員として勤務した私に

とって授業の一部としてSkype（スカイプ）を一時期使用した以外はパソコンやタブレット等の情報機器を使つての通信による授業経験は皆無であった。しかし暗中模索状態の私に対して東京情報大学教員や事務職員の皆様は短期間の中でオンライン授業の方法や実際の機器取り扱いについて多く教授くださり、またその他注意事項等は文書や電子メールで指導をして頂いた。

本学ではすでにオンラインで担当教員が受講者に対して課題や小テストを課しそれらを提出したり答えたりする仕組みが構築されているため、受講者にとってはオンライン授業の採用は環境的及び条件的にはハードルは高くはなかった。

## 3 現状で適切と考えられるオンライン授業

本学からの授業の条件は「Zoomウェビナーを用いた受講者との同時双方向授業」であった。Zoomウェビナーの場合同時に数千台以上もの情報機器に情報発信できるがZoomミーティングのように受講者の顔や背景はパソコン画面に映らない仕組みになっている。そのため教室での通常の対面式授業のように教員と受講者の双方向性を確保することが困難であると予想された。しかし大学担当者からはZoomウェビナーに備わっている「挙手」、「チャット」及び「Q & A」の機能を用いて双方向性を確保できると指導して頂き、実際の授業ではそれらを最大限利用した。

Zoomウェビナーを用いた同時双方向型授業以外にも授業の録画を受講者の希望に応じて個別配信するオンデマンド型、週ごとまたは受講場所ごとに対面型授業とオンデマンド型を交互に行ったり、対面授業を同時中継で配信するハイブリッド型授業等が考えられるが、このZoomウェビナーを用いた同時双方向型授業は、現状の授業展開に伴う条件、つまり40名以上の受講生に対しての一斉授業、情報機器の扱いを含めオンライン授業に習熟していない私のような授業者であることを考慮すれば20年度授業開始時点では最も適切な授業方法であると考えられた。

## 4 オンライン授業実施のための準備

オンライン授業を展開するに当たって授業者側にとっては実施しやすく、受講者側にとって分かりや

すい授業という観点で準備し、工夫した。

#### 4.1 英語授業の原点を見据えて

英語学習においては授業中の生徒の学習活動の量や質が授業を評価の主な基準や指標とされ、近年特に強調されているのがアクティブラーニング（AL）である〔注2〕。それゆえに小中高等学校と同等かそれ以上に大学であってもALは必須であるため実際にシラバスにはALの内容や方法等が記されることになっている。通常の対面式の授業であれば教室内に教師によって調えられたオーセンティック（より実践的）な状況設定の中で対教師または受講者同士が自由に目標言語を使っての言語使用の体験を重ねて言語運用能力を伸ばしていくのは当然の指導目標である。しかし現状は「3密の防止」である。オーセンティックな授業が叶うはずもなく、また実践することは慎まなくてはならない状況にある。

大学での英語授業を開始するにあたって授業の原点として思い描いたのは教科書の深い理解とその理解からさらに広げて躊躇無く目標言語を使用できる運用能力の向上であった。同時に目指したのは、「全員が理解し4技能を育成する英語教授」という目標である。これは、過去に小中高等学校でAL中心に展開された授業の中で基本的な英語学習項目（語彙、音読、発音、発話、会話、読解、語法、日本語訳、英語作文、自由作文等）に遅れを取った受講者に対して取られていた方針であるが、大学でオンライン授業を実践するにあたりそのことを念頭において準備をした。

#### 4.2 オンライン授業実施のための具体的な準備の過程

授業で用いる教科書や授業の際の情報機器の取り扱い方等についてどのように行ったら良いか検討及び準備して授業を行った。

##### (1) 受講者の観点から見た情報通信機器の利用方法

受講者が用意する情報通信機器（パソコン、スマートフォン、タブレット等）の画面（ディスプレイ）の見やすさを目的に画面いっぱいに教科書の各ページまたはページの一部を映し出せるようにするため教科書の全ページをスキャナー機器でスキャンしてMicrosoftの「Microsoft PowerPoint」に取めた。ここでは教科書を完全に裁断して全ページをスキャンしやすいようにした（写真1）。

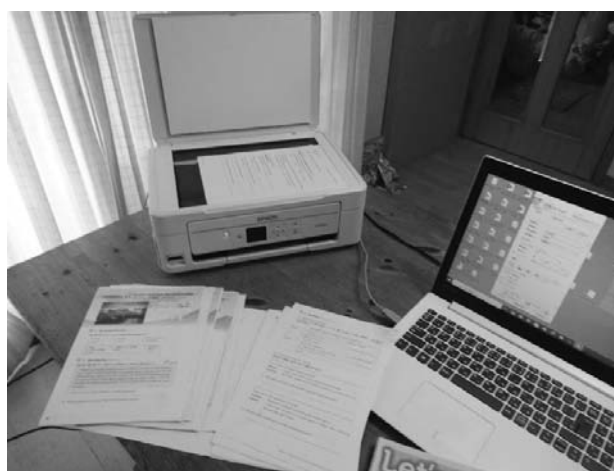


写真1：教科書を裁断して1ページごとにスキャナーで丁寧にスキャンしてファイル化する

この教科書全ページスキャンを思いつく前は教科書をパソコン内蔵カメラか外付けカメラで映し出しながらその内容を説明、解説及び各設問の解答を行うという方法でオンライン授業を想定していた。教室内に着席している学生に対して教壇上の教師が教科書を持ちながら教授している様子を情報機器の画面に映し出す状態をイメージして授業を組み立てることを考えた。しかし、問題となったのは果たしてこれで学生の教科書理解や言語活動は十分に進展するのかという懸念であり、結局採用には至らなかった。

##### (2) オンライン授業用教材としての独自ページの作成

オンライン教材としてMicrosoft PowerPointのスライドを作成した。その中には教科書のスキャンデータだけでなく、教科書だけでは指導上不足があると思われる学習項目ページを挟み込んだ。具体的には練習問題、単語のアクセント、日本語訳、関連資料、地図、グラフ等を作成した。それらの作成には教師用指導書が役立った（写真2）。

##### (3) オンライン授業における音声配信の方法

作成したMicrosoft PowerPointファイルを開いてZoomウェビナーの「画面の共有」でページを順番に画像として送り出すので英文朗読の音声の送り出しもパソコン格納の音声ファイルを開いて行うのが自然であるが、あえて音声はCDプレーヤーによるアナログ方式の音出しとした。過去の高等学校での指導経験上CDプレーヤーの方が使い慣れていてパソコン操作での「ファイルを開き→選択→クリック」等の作業による画面の途切れや操作に習熟して



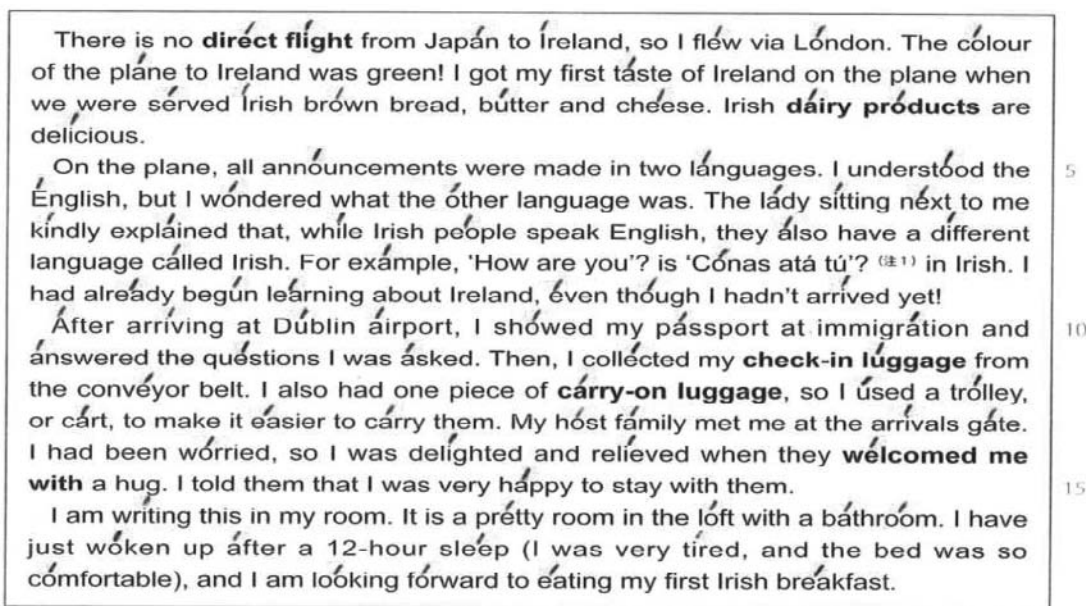


写真2：音声指導として英文の各語彙の第1アクセントの位置を赤ペンで記した

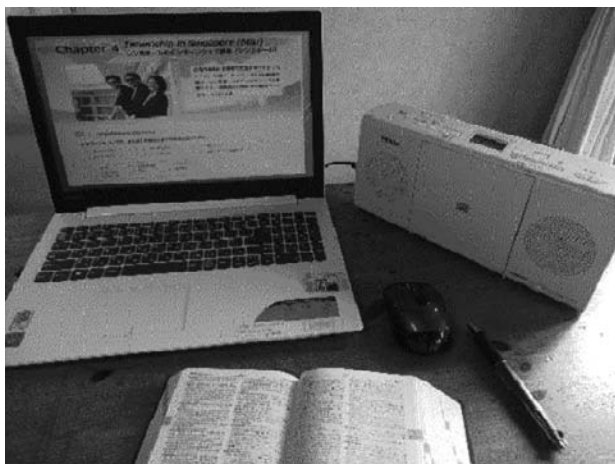


写真3：音声の送り出しにはあえてパソコン内に収めてあるファイルを使わずにCDプレーヤーを用いて担当者の声と同じようにパソコン内蔵マイクで拾って音声を送り出した

いないことによるトラブル等の防止を考慮した(写真3)。心配された音声の乱れやハウリング現象は発生しなかった。これは受講場所で受講者が通信用に使用するパソコン、タブレット、スマートフォン等の通信機器が1台であったため音声相互に干渉し合うことが無かったこととZoomウェビナーの機能では受講者側の音声を拾わないためであった。

## 5 オンライン授業開始と実際

オンライン授業についての私自身の感想や気づいたこと、受講者の反応や問題点として浮かび上がったこと、

またそれらの点についてどのように対処したかについて本節で述べる。

### 5.1 オンライン授業開始

前期及び後期それぞれの授業は各90分15回で構成され7回目か8回目に中間試験、15回目に期末試験をオンラインで実施した。各授業におけるMicrosoft PowerPointのページ数はおおよそ20ページから25、6ページで構成され、Zoomに備えてある「画面の共有」機能を用いて順番に捲りながら教科書の内容や独自資料の説明や解説を行い、Microsoft PowerPointに納められているアニメーション機能を使って一つずつ教科書の設問に解答していった。双方向性を生かすために設問の解答について受講者に呼びかけて「チャット」や「Q & A」、「挙手」の機能を用いた(写真4)。

20数ページの説明や解答に時間を費やし過ぎてしまうと授業時間が優に90分を超える恐れがあるため、時間内に収めるために1ページの説明・解説・解答に一定の制限時間を設けた。

授業時に確実にオンラインでの授業が実施できるように授業開始時刻前に「入室」している数名の学生に呼びかけて「画像」と「音声」が実際に届いているかどうか確認のため協力を仰ぎ事前テストを行った。このテストのおかげで前後期合わせて30回のオンライン授業での通信トラブルやトラブルによる授業中断は無かった。

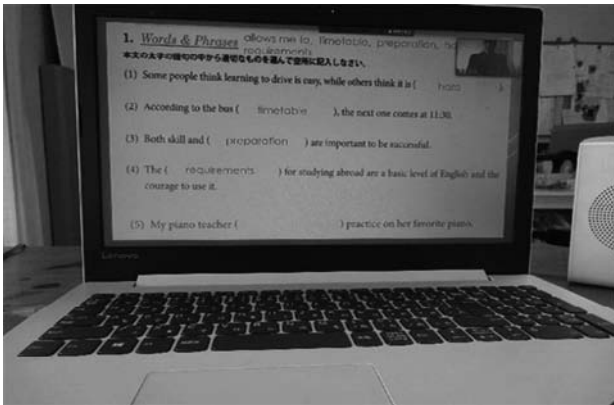


写真4：質疑応答や設問の解答等に「チャット」や「Q&A」「挙手」の機能を用いた。担当教員の顔や姿が現れるのは授業の開始時や終了時等の特定の時間帯のみとした

## 5.2 オンライン授業におけるより深い学びのための工夫

大学の他の科目と同じようにこの授業でも受講者に予習及び復習を課した。予習は教科書を開いて予定授業のユニット（単元）の単語調べや音読，日本語訳，教科書設問の事前回答，復習ではオンライン学習サイト／システム「WebClass」授業資料欄に掲載した授業資料（PDF化ファイル）を開かせ，既習項目の定着や試験対策の学習に使用させた（写真5-1）。

またこのWebClassには実際に何名の学生が各ファイルを開いたのかが数字として表示されるため

に学生の復習状況が分かり，直後の授業での指導に役立った。受講者側の学生たちはパソコンやスマートフォン等を使用して掲載された授業資料ファイル（写真5-2）を確認することで「後で掲載ファイルを見直せば大丈夫だ」という意識と理解度の向上へのモチベーション，さらには復習や試験対策等の学習への意欲が芽生えてきたと述べていた。

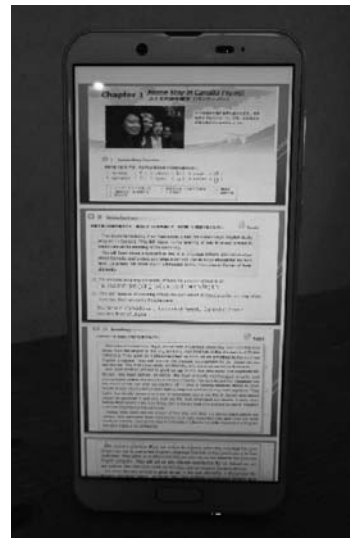


写真5-2：学生たちはWebClassにアップロードされた授業資料をパソコンやスマートフォン等を使用して復習や試験対策として学習するが，特にスマートフォンを使って学習する場合，学習場所を選ばないので便利であるという感想がいくつかあった

タイムライン	英語の授業資料	教材を作成する
<p>英語の期末試験（追々試験）について</p> <p>1月15日（金）に実施した「英語D 期末試験（追試験）」を受験できなかった学生は、「英語D 期末追々試験」を受験してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時：1月20日（水）20:00～21:30</li> <li>受験方法</li> <li>各自「WebClass」 「英語D 期末追々試験」ファイルを開いて受験する（入室の必要はない）</li> <li>該当者</li> </ul> <p>2020.09.18</p> <p>2021.01.15</p> <p>なお、過渡環境やその他の事情で受験出来ない場合は、担当の遅速まで</p>	<p>● 英語D第1回(9.18) 授業資料</p> <p>資料</p> <p>更新 6ヵ月前 実行者数 37</p>	<p>教材並び替え/ラベル設定</p> <p>英語D授業資料</p>
	<p>● 英語D第2回(9.25) 授業資料</p> <p>資料</p> <p>更新 6ヵ月前 実行者数 37</p>	
	<p>● 英語D第3回(10.2) 授業資料</p> <p>資料</p> <p>更新 6ヵ月前 実行者数 36</p>	
	<p>● 英語D第4回(10.9) 授業資料</p> <p>資料</p> <p>更新 6ヵ月前 実行者数 34</p>	
	<p>● 英語D第5回(10.16) 授業資料</p> <p>資料</p> <p>更新 5ヵ月前 実行者数 34</p>	
	<p>● 教科書 Review Test 1 問題・解答</p> <p>資料</p> <p>更新 5ヵ月前 実行者数 30</p>	

写真5-1：WebClassの授業資料欄を用いて授業で使用した資料や中間試験や期末試験のファイル等を掲載した。受講者は必要に応じて利用することが可能

## 6 成績評価用オンライン試験の作成と実施

オンラインでの中間及び期末試験を実施するに当たり、試験作成、作成上の注意点、WebClassへのアップロード、実施した際のメリット、デメリット等について考察した。

### 6.1 オンラインでの中間及び期末試験の実施

本学が使用しているWebClassというオンライン学習サイト／システム（写真6-1）を用いて試験問題をこのシステムにアップロードすることで受講者はオンラインで試験を受験することができる。大学での初めての試験作成となる前期の中間試験については私がこのシステムでの試験作成やアップロード等が未経験でほとんど設定や掲載ができなかったため情報科目の専任教員にお願いして試験原案の修正とアップロードを代行していただいた。その際、WebClass上での試験問題の形式や作成方法について解説動画とともにご指導頂き、その結果その後の各試験においては作成及びアップロードは私自身で行うことが可能となった。

### 6.2 オンライン試験問題の作成

#### (1) ワープロソフトでの試験問題を作成

Microsoft Wordでの作成なので教科書の英文や日本語訳、問題例、練習問題等のデジタルデータがそ

ろっていればこの形式で試験問題を作成することは比較的容易である（写真6-2）。問題作成においては選択式問題50問1問2点100点満点の試験問題として作成した。その理由は記述式問題の場合は採点に関する正確性が保たれないことと点数化が自動計算でできないためである。WebClassにアップロードされる試験の特性を活かし、受験者の解答終了時には自動計算で試験の得点が表示（教師側の掲載ファイルのみ）される仕組みを最大限活かしたかった。この結果、受講者に対しては試験終了後2時間以内には受験者個別の得点を直接本人に知らせることができたと同時に成績評価の基礎資料となる中間及び期末の試験結果を知らせることによって成績評価についての教員学生間の齟齬を無くした。

#### (2) オンライン用中間及び期末試験作成の手順

写真6-2の試験問題原案（Microsoft Wordで作成）をもとに本学使用の学習システムWebClass上の小テスト欄に「タイトル名」、「試験実施日時」、「配点」、「総点」、「解答用選択肢数」、「解答番号」等を指示に従って入力する（写真6-3）。1問ごとと解答の50問の選択問題形式試験になるように試験原案から部分ごとに切り貼りや書き込みをして試験問題を作り込み、写真5-1のファイル欄にアップロードした。受験者はファイルで掲載された「英語D中間試験」を試験実施日の決められた時間（前後



写真6-1：矢印の掲載された試験ファイル「英語D中間試験 11.13実施」を開くと試験の解答が可能になる。またファイルは「利用可能期間」として授業時間にしか開くことができない



期それぞれの7回目か8回目及び15回目の授業開始 ことで解答可能となる。  
時刻)にクリックして開く(写真6-4, 6-5)

2020.11.13 実施

**東京情報大学総合情報学部英語 D (Ab, Bb クラス) 中間試験**

※各問は、1から50までの通し番号になっています。解答として適する番号を各選択肢から選んで、その番号で答えてください。解答する際は、教科書、辞書等を見たり、調べたりしてかまいません。解答順がずれないように注意して解答してください。各問の解答中に「終了」をクリックすると、全て終了と見なされ、その後の解答は出来なくなります。また、見直しも出来ませんので、見直す場合は、最後に「終了」をクリックする前に行ってください。「終了」クリックは最後に1度だけにしてください。何らかの事情で、解答に失敗して、解答不能になった場合は、メールまたはチャットで知らせてください。

次の英文を読み、下の各英文が内容に合っているか異なっているかを選びなさい。

After about a nine-hour flight, we arrived in Canada yesterday morning! We took taxis from the airport to the English Language Institute of the University of British Columbia. They gave us a placement test as soon as we enrolled in the summer English program. They will put us into classes appropriate for us, based on our test scores. The first class starts on Monday, and we must arrive by 8:40 am.

Our host families arrived to pick us up in the late afternoon. I recognized Mr. Brown, my host father, at once. We had already exchanged emails and photographs online. He was so kind and cheerful. He quickly put my baggage into the trunk of his car and we started off. It was a

写真6-2 : まずはワープロソフトを用いて試験問題を作成する

写真6-3 : WebClassの試験作成画面内の指示に従ってタイトル日時設問形式等を入力

**英語D中間試験 (11.13実施)**

- 実行回数 [1 回まで]
- 制限時間 [90 分]
- 利用可能時間 [2020/11/13 10:55~2020/11/13 12:25]
- コース管理者はいつでも、何回でも実行可能です。

開始
終了

写真6-4 : 試験表題ページ。「英語D中間試験」をクリックすると次の画面が表示される。試験実施日の授業時間内でしか開くことはできない

2020.11.13 実施

東京情報大学総合情報学部英語D (Ab, Dbクラス) 中間試験

※各問は、(1) から (50) までの通し番号になっています。解答として進める番号を各選択肢から選んで、その番号で答えてください。解答する際は、教科書、辞書等を見たり、調べたりしてかまいません。解答順がずれないように注意して解答してください。各問の解答中に「終了」をクリックすると、全て終了と見なされ、その後の解答は出来なくなります。また、見直しも出来ませんので、見直す場合は、最後に「終了」をクリックする前に行ってください。「終了」をクリックは最後に1度だけ行ってください。何らかの事情で、解答に失敗して、解答不能になった場合は、メールまたはチャットで知らせてください。

次の英文を読み、下の各英文が内容に合っているか異なっているかを選びなさい。

After about a nine-hour flight, we arrived in Canada yesterday morning! We took taxis from the airport to the English Language Institute of the University of British Columbia. They gave us a placement test as soon as we enrolled in the summer English program. They will put us into classes appropriate for us, based on our test scores. The first class starts on Monday, and we must arrive by 0:40 am.

Our host families arrived to pick us up in the late afternoon. I recognized Mr. Brown, my host father, at once. We had already exchanged emails and photographs online. He was so kind and cheerful. He quickly put my baggage into the trunk of his car and we started off. It was a twenty-minute drive to their house. I was introduced to each family member and led to my room upstairs. That night, the family asked me a lot of questions about my life in Japan and about Japan in general. I realized that my life had changed so much in less than

1.  合っている  
2.  異なっている

[前のページ]

写真6-5: WebClassでの試験問題は各問それぞれに対して設問文が有り、解答後は画面上の「次のページ」をクリックして次の設問を解答していく

### (3) WebClassでの試験作成の注意点

1問2点の50問の選択式の試験とした。1問ごとに設問文を掲載して、受験者の答えやすさや正確に設問を理解して正しい答えを導きやすくするという観点で作成した。受験者の受験した上での感想は、1問ごとの設問文や説明文が長くても画面上で読むのはさほど苦にはならずかえって正しい答えが見つけやすいというものであった。

### 6.3 オンライン試験実施上の工夫

オンライン上での試験実施ということでいくつかの懸念が想定されたが次のように工夫した。

- ①試験解答時間は当日の授業時間内とする
- ②試験範囲は前回授業までの教科書部分と教科書の内容レベルの応用問題とし比率は50% + 50%にした
- ③解答の際は教科書・辞書・電子辞書・パソコン・スマートフォン等何を参照しても良い
- ④試験終了後自分の得点を知りたい場合は、担当者までメール送信すれば返信メールで得点を知らせる
- ⑤未受験者には追試及び追々試の機会を与えるので「未受験の理由を担当者までメールで知らせること」と指示した

①～③についてはご批判多数あると思うが「情報」を専門とする大学の特性上情報機器を用いた試験実施が情報機器操作習熟と運用の機会になる。またパ

ソコン、スマートフォン等の通信機能を使っての不正解答が無いとは言い切れないが、不正解答の恐れがある場合には、問題作成機能に備えられている「問題のランダム出題機能」を使用することができる。一方で、当該システムでの試験実施の場合、特に④の得点を知らせることはこのオンライン式試験のメリットである。受験者が解答を終えた瞬間に得点が教員側のパソコンに蓄積、表示されるため試験時間終了直後に受験者に知らせることができた。実際には希望する受験者から得点希望のメールを受けその返信で得点を知らせた。

## 7 オンライン授業に対する受講者の評価と反省

本学で実施した「授業評価アンケート」21項目の設問を基に授業の評価について概略を客観的にまとめた。

### 7.1 大学で実施した授業評価アンケートにおける主な肯定的な意見

授業はシラバスに沿って行われ、シラバスの到達目標は達成されたという学生側の評価であった。教師側はオンライン授業は教室での対面授業に比べて授業を進めやすいと感じたが、実際にそれが受講者の理解や達成感に結びついているかをアンケートでは明らかにするのは難しいと感じた。

各回の授業についての評価は、授業の進むスピード



は適切で、スライドは見やすく、教材等は分かりやすかったというものであった。教師側がパソコンやタブレット等の画面を黒板と同様に使用したので、教材や資料は見やすく分かりやすいという評価であった。

さらに、受講者の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていて、教員側の授業への熱意・誠意は感じられ、情報倫理（モラル）も説明していたという評価は、授業の準備や実際の授業展開について一定の評価を得たものと感じた。受講者は学ぼうという意欲を持ち積極的な姿勢（質問や自己学習等）でこの授業に臨み、授業の内容が理解でき、授業で新しい知識や考え方を得ることができたという自己評価であった。

また、オンライン授業の実施方法については、一般的に学生側は満足であり、オンライン授業の利点を活かした授業運営が行われたという評価は、オンライン授業を構築する際の私自身の意図や目標がある程度実現されたと判断できた。

## 7.2 授業評価アンケートにおける主な否定的な意見

授業の予習復習準備課題のために1週間当たり平均してどれ位学習をしているかの問いに1時間程度が最も多い。また授業を受講してこの分野をさらに学びたいあるいはもっと高いレベルを目指したいという気持ちになったかの問い及び後期もこの授業と同じ方法でオンライン授業を履修したいかという問いには肯定的回答は60%程度であった。オンライン授業の利点を活かしてきれていない評価が多く、今後は新しい知識の普及と共にオンラインによる魅力的な授業の構築を実現しなければならないと感じた。

## 7.3 英語C2020年度前期授業評価アンケート（匿名式）結果

集計のほとんどは「1 とてもそう思う 2 そう思う」の肯定的回答と「3 どちらともいえない・そう思わない・全く思わない」の否定的回答になっている。

### 集計結果 [回答者数 37人/37人 (100%) 設問数21]

#### 設問1

##### 1 この授業を履修した理由（複数回答可）

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	必修科目・選択必修科目（学系の推奨科目）だから	33	89%
回答2	専門的知識・技術を得るために必要だから	3	8%
回答3	シラバスを見て授業内容に関心を持ったから	1	3%
回答4	先輩・友人にすすめられたから	0	0%
回答5	時間割の都合から	3	8%
回答6	単位が取りやすいと思ったから	2	5%
回答7	取りやすい科目がほかになかったから	0	0%
回答8	その他	1	3%

#### 設問2

授業はシラバスに沿って行われましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	20	54%
回答2	そう思う	17	46%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	0	0%

#### 設問3

シラバスの到達目標は達成されたと思いますか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	16	43%

回答2	そう思う	21	57%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	0	0%

## 設問4

各回の授業の進むスピードは適切でしたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	21	57%
回答2	そう思う	15	41%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	1	2%

## 設問5

Zoomを利用した授業でのスライドなどは見やすく分かりやすかったですか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	20	54%
回答2	そう思う	14	38%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	3	8%

## 設問6

教材（教科書、WebClass教材など）は分かりやすかったですか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	14	38%
回答2	そう思う	21	57%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	2	5%

## 設問7

教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	21	57%
回答2	そう思う	15	41%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	1	2%

## 設問8

教員の授業への熱意・誠意は感じられましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	22	59%
回答2	そう思う	14	38%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	1	3%

## 設問9

教員はオンライン授業を受講するにあたり情報倫理（モラル）を説明していましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	21	57%
回答2	そう思う	14	38%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	2	5%

## 設問10

この授業の出席率は

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	100%	29	78%
回答2	99~90%	7	19%
回答3	89%以下	1	3%

## 設問11

学ぼうという意欲を持ち積極的な姿勢（質問や自己学習等）でこの授業に臨みましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	14	38%
回答2	そう思う	19	51%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	4	11%

## 設問12

情報倫理（モラル）を遵守し不必要な操作をせず受講しましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	31	84%
回答2	そう思う	6	16%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	0	0%

## 設問13

授業の予習復習準備課題のために1週間当たり平均してどれ位学習をしましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	4時間以上	0	0%
回答2	3~4時間未満	2	5%
回答3	2~3時間未満	3	8%
回答4	1~2時間未満	15	41%
回答5	1時間未満	12	32%
回答6	していない	5	14%

## 設問14

授業の内容が理解できましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	13	35%
回答2	そう思う	22	59%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	2	6%

## 設問15

この授業で新しい知識や考え方を得ることができましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とてもそう思う	10	27%
回答2	そう思う	21	57%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	6	16%



## 設問16

この授業を受講して内容的に満足しましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とても思う	17	46%
回答2	そう思う	17	46%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	3	8%

## 設問17

この授業を受講してこの分野をさらに学びたいあるいはもっと高いレベルを目指したいという気持ちになりましたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とても思う	7	19%
回答2	そう思う	15	41%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	15	40%

## 設問18

この科目のオンライン授業の形態は（複数回答可）

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	リアルタイム型Zoomウェビナー	35	95%
回答2	リアルタイム型Zoomミーティング	3	8%
回答3	オンデマンド型Stream	0	0%
回答4	資料・課題提示, WebClass	1	3%
回答5	リアルタイム型Teams	0	0%
回答6	その他	0	0%

## 設問19

オンライン授業の利点を活かした授業運営が行われたか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とても思う	11	30%
回答2	そう思う	18	49%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	8	21%

## 設問20

この授業のオンライン授業の実施方法について満足しているか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とても思う	17	46%
回答2	そう思う	15	41%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	5	13%

## 設問21

後期もこの授業と同じ方法でオンライン授業を実施した場合履修したいか

回答番号	回答内容	回答数	回答率
回答1	とても思う	12	32%
回答2	そう思う	15	41%
回答3	どちらともいえない・そう思わない・全く思わない	10	27%

#### 7.4 受講生（学生）の主な感想及び担当者からの回答

後期英語 d 期末試験終了時にチャット及び Q & A 機能を用いて受講者の授業や試験に対する感想等を頂き担当者として回答した。一部を紹介する。（○受講者 ☆担当者）

○資料も見やすく書けなくても WebClass で公開してくださるので助かりました。また海外で使える英語海外の状況の題材だったのでためになりました。しいて言えばテキストの難易度を上げて頂き文法をもう少し解説してほしいかったです。1年間ありがとうございました。

☆ご助言ありがとうございます。来年度に向けてとても参考になります。

○試験の後半が少し難しかったです。

☆分かりました。今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○今日出席ができなかったのですがどうすればよいですか

☆追試験を設定しますので WebClass のタイムラインを後で見確認してください。

○ウェビナーは終わってなくても退出して構いませんか？

☆試験の解答が終了していれば退出してください。退出して期末試験ファイルを開いて解答しても良いです。どちらにしても必ず試験を解答してください。

☆試験を終了して残り時間に余裕があれば英語 cd の授業及び試験についての感想等を書き込んでいただけるとありがたいです。来年度授業の参考にさせていただきます。よろしく願います。

○約 1 年間英語を教えて頂きありがとうございました。教え方が丁寧でとても分かりやすかったです。また何か機会があればよろしく願います。

☆こちらこそありがとうございました。これからも頑張ってください。

○終わりました。私個人としての難易度は、文章問題はやや簡単で 26 問以降の問題は若干難しかったです。

☆分かりました。感想ありがとうございます。参考にします。

○授業が分かりやすく理解ができていたのでテスト問題もスムーズに解けました。

☆分かりました。感想ありがとうございます。

○終わったのですが抜けてもよいですか？

☆大丈夫です。退出してください。

○ありがとうございました。

○今回は名前を伏せてのテスト最高点の開示はないですか？

☆渡邊あてにメール送信してください。返信で最高点と得点をお伝えします。

○前期から後期までご教授頂きありがとうございました。

☆こちらこそありがとうございました。

○来週授業はありますか。

☆授業は本日で全て終了です。お疲れ様でした。

#### 8 おわりに—今後のオンライン授業に向けて—

年度当初の英語 d シラバスの「授業の目標」欄には以下のように書き込んだ。「授業の目標は英語総合教材を用いて世界に飛躍するための基礎力を培い海外での留学インターンシップボランティア活動などを学生自身が報告するという設定で英語圏の国々の諸事情を深く理解しつつ登場人物と共に海外生活を経験し社会的にまた同時に人間的に成長することを目指します」。

1 年間前期及び後期を通じてのオンライン授業やオンラインでの成績評価用試験の実施において教員として強く印象に残ったことはオンライン授業やオンライン試験は計画や組み立て、準備、フィードバック方法等を一定程度調べて臨めば単純明快で効率

的、効果的だということである。

受講者側から見たZoom ウェビナーを使用した学習状況、つまり使用しているパソコンやスマートフォンを教師として見立てると、その状況は直接の受け答えが成立するなら、受講者にとっては最も身近なところでの音声や画像を用いた教師1名対受講者1名の個別指導の形態に近いと言える。この状況を踏まえれば、オンライン授業をさらに改善し、工夫する方法が見いだせるように思える。

社会における環境の変化、たとえば現在の新型コロナウイルス感染拡大や多発している災害等による休校や通学困難等を考慮すれば、頻繁に授業形式が対面形式からオンライン形式に、さらにオンライン形式から対面形式に置き換わることは十分に予想され、それに対応した受講者の柔軟性と対応力の育成は学校教育の喫緊の課題であり、同時に社会生活においても今後ますます必要とされるスキルと言える。

オンライン授業と対面授業は決して対立しているものではない。現在のパンデミックという異常事態をきっかけに導入を加速させたオンライン授業であっても、学習する際のツールはそれが情報機器であっても用いるツールの多様性は受講者の学習効果や学習スキルの向上を促すと考えられる。

授業のあり方やどのように授業が行われるかは教育の歴史や取り巻く社会の姿そのものが反映されている。オンライン形式の授業もその進化の一過程と捉えれば今後オンライン授業そのものがさらに進化し教育を含む社会の発展に貢献し得るのではないか。

オンライン授業の学習効果を高めるためにはまずは第一に教科書等の主教材、教科書準拠副教材、教科資料等のデジタルファイル化、またそれらの作成や利用に関するガイドラインや法的整備があるべきだと思う。私の本学での取り組みの中心は正に簡略化した教科書と教科資料のデジタル化である。

大学に限らず今後はどの学校種においても通信環境や通信設備の整備や進展についての地域的または時間的な差異は当然あるが、オンライン授業そのものはさらに一般化、日常化すると考えられる。現在のパンデミックという異常事態ではあるが、特に今年度のオンライン授業の始動は大学始めその他の教育現場に大きな影響を与えた。オンライン授業が単に教室での対面授業の代替措置ではなく、オンライン方式を用いるからこそ実現できる教育目標や教科

目標をさらに明確にして各校種や各校が独自にまた主体的にオンライン授業やより工夫された遠隔での教育活動を追求、実践することで現状の教育上の諸問題解決への糸口になるなら大いに喜ばしいことである。

#### 【注】

【注1】 石田晴美：大学オンライン授業の教育効果に関する考察—初学者対象簿記オンデマンド授業の実態報告、経営論集、文教大学経営学部、Vol. 7, No. 2, March 2021, pp.1-13, (2021).

【注2】 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編 平成30年7月（文部科学省）第1章 総説 P4

#### 【授業用教材（教科書）】

- ・英語 c（前期）「English Indicator 1 〈Essential〉」  
Terry O'Brien/Kei Maeda 他（南雲堂）
- ・英語 d（後期）「Let's Get Out of Japan! 英語で世界に橋を架けよう」川村義治／Gavin Lynch（南雲堂）